

小学校・幼稚園・地域のお祭り

金上いなほ祭り



だがしや楽校 @ 金上いなほ祭り

日時：2011年10月22日（土） 8:40～15:30

午前の部：8:40～12:00・・・小学校・幼稚園の発表
カラオケ発表

午後の部：13:00～15:00・・・だがしや楽校

エンディング：15:10～15:30

場所：会津坂下町立金上小学校

会津坂下町金上公民館（カラオケ発表）

《はじめに》

福島県河沼郡会津坂下町で今年（2011年）も“金上いなほ祭り”が開かれました。

会津坂下町の東側・田畑が広がる平坦部に位置する金上地区で毎年開かれている“金上いなほ祭り”では2008年から“だがしや楽校”を開いています。

特に第3回目の昨年は、“だがしや楽校”について地域の人たちに理解を深めてもらおうと、全国から“だがしや楽校”仲間が集ってもらい、だがしや楽校シンポジウムを開きました。そして、“だがしや楽校”では、おみせも出してもらいました。

（“金上いなほ祭り”の歴史や1年前の“金上いなほ祭り”については、2010年10月23日付けの報告をご覧ください）

このように1年前は大々的に“金上いなほ祭り”を開いたのですが、今年は2年前に戻して、金上地域としてのお祭りとして開くことにしました。これについて、金上公民館の佐藤房枝さんから、次のような連絡をいただきました。

今年は従来どおりの地域完結型の形で実施することにしました。

ただ、今回は地域づくりの方で関わりのあった、福島大学の学生さん数名が来られて、お店を出すことになっております。

小学校が統廃合になった平成 25 年度からは、学校と地域の連携というテーマではなくて、地域活性化、他地域との交流などと兼ね合わせて、新たなだがしや楽校を作りあげたいな、と思っております。今年と来年は、学校と地域の交流を目的に今までの形でやりたいと思っております。

昨年と比べるとお店の数も少ないのですが、今回は店を出さずにじっくり回りたい！という方々がいて、このようになりました。

昨年の“金上いなほ祭り”を受けて、でも、やっぱり大切なのは地域の人同士のつながりであり、基本の戻る上で、私はこれで良いと思いました。

とにかく、何より気になっているのが、2013 年 3 月で、金上小学校が統廃合されることです。小学校で“だがしや楽校”が開かれること自体、全国的にも希なことです。その背景には、金上小学校と地域がつながっており、地域に開かれている小学校であることです。

現代は、「安全」と称して、門を閉ざす小学校が多くなっている中、金上小学校はまさに貴重な存在です。だからなおさら、統廃合になることが私にとっても非常に残念でたまらないのです。

そのため、金上小学校での“金上いなほ祭り”を「自分の目に焼き付けなければ・・・」という思いが強くあるわけです。ある意味、“だがしや楽校”普及事業に携わる私（山口）自身の使命（ミッション）であると思っております。

福島大学との交流があるという情報もいただきました。こちら楽しみです。

また、「昨年と比べると（だがしや楽校の）お店の数も少ないのですが」とのことですが、それは 1 年前に比較しただけで、いただいたチラシを拝見しますと、今回も数多くのおみせが出されており、「すべてのおみせを取材できないかも」と思ったほどです。金上パワーを感じました。

それでは、前置きはこのくらいにして、今年（平成 23 年）の“金上いなほ祭り”をご紹介します。



2011 年 10 月 22 日（土曜日）会津坂下町の天気：小雨のち曇り

【金上いなほ祭り】

この日は、米沢も朝から小雨が降って、あいにくの天気となってしまいました。1 年前の“金上いなほ祭り”が見事な快晴でしたので、ちょっと残念です。催しやおみせの一部は野外で予定していたものもあって、若干の影響は出そうですが、多くは屋内ですので、「大丈夫だろう」と思

いながら、米沢を出発しました。

紅葉が見頃になりつつある国道 121 号大峠を通過して、会津に入ります。

実は 3 月 11 日以降、国道 121 号沿いでは、米沢市入田沢と喜多方市熱塩加納町の 2 ヶ所を震源とする地震が頻発しておりますので、大きな地震が起きないように祈りながらの会津入りです。

“金上いなほ祭り”は午前 8 時 40 分から始まっており、オープニングでは、2 年生の“おみこしワッショイ”、幼稚園と 1・2 年生による“よさこい「コネッチャアッカー」が披露されました。そのあとは、幼稚園発表（歌「童謡メドレー」「さんぽ」、リズム「マル・マル・モリ・モリ」）、3・4 年生発表（斉唱「楽しいね」、合奏「マル・マル・モリ・モリ」）が披露されました。

続いて、恒例になっている 1 年生～6 年生の学年代表による“金上っ子の主張”発表がありました。

そして、午前 10 時から、各教室で、学年毎に“学習発表”が行われました。

私が到着した午前 10 時 30 分すぎは、この“学習発表”が行われていた時です。

カラオケ発表の音が聞こえる金上公民館の前を通り、佐藤房枝さんへ到着したことを報告し、金上小学校に向かいます。



校舎を見ますと、胸に詰まるものを感じますが、ここで感慨にふけっているわけではありませんね。校舎に入ってみましょう。

佐藤房枝さんにお会いした後、“学習発表”の様子を取材することにしました。

5 年生の教室では、“めざせ！お米博士”の発表です。このテーマでは、1 年前の 5 年生も発表しています。「5 年生伝統のテーマかな」と思って見ていますと、佐藤房枝さんから声かけがありました。さて、なんでしょう。



◆ブラジル交信

金上の子どもたちとブラジルの子どもたちには交流があります。

そこで、今回の“金上いなほ祭り”では、ブラジル交信が行われることになりました。ブラジ

ル交信は、インターネットを利用したテレビ電話“スカイプ”によって行いました。

交信は10時から行われたのですが、Y新聞社の取材により、12時頃にもう一度交信を行うことになりました。しかし、ブラジルとの時差はちょうど12時間ですので、「それではブラジルの子どもたちは大変だろう」ということで、再交信は11時頃から行うことになったのです。

それで、佐藤房枝さんが私にも声がけしてくださったのです。

◎経緯

まず、金上の子どもたちとブラジルの子どもたちが交流することになった経緯（概要）を、パソコン室に貼られているポスターの文章を引用しながらご紹介します。

1985年10月、金上の成田嘉孝さん（農業）が県海外研修でブラジルを訪問し、サンパウロの県人会青年部と交流しました。その時、幼稚園の先生である武田愛美ジュリアさん（日系二世）と知り合いました。ジュリアさんは県費留学生として1986年に初めて日本を訪れ、福島大学で、また1987年には福島女子短大で学びました。

1988年に帰国後、ジュリアさんはブラジルの子どもたちと会津の子どもたちをどうしても交流させたいという熱い想いを山内和子先生（現ホベルト・ノリオ校長）に相談します。山内さんは成田さんに交流学校探しの依頼をします。成田さんは、当時の新保金上小学校校長と相談し、まずは幼稚園との交流が始まりました。

それから交流の主体が小学校に移り、これまで金上小からは2回ブラジルを訪問し、ブラジルからは4回来日しています。

今年（2011年）の12月に3回目のブラジル訪問をし、来年（2012年）1月にはブラジルの子どもたちが金上小を訪問する予定です。

以上が経緯（概要）です。さらに、経緯の詳細については、このあとのインタビューでお伝えします。

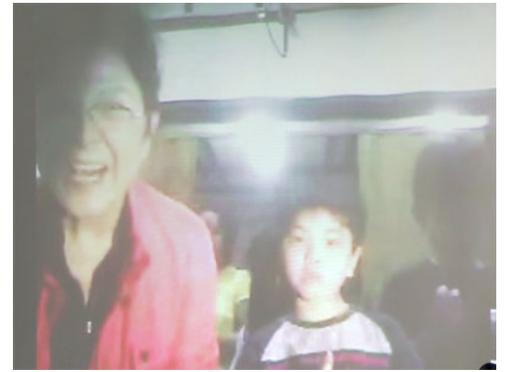
パソコン室に入りますと、すでにブラジル側とつながっており、スクリーンにブラジルの子どもたちが映し出されています。夜の11時ということで、ちょっと眠そうなお子さんもおりますが、皆さん元気にカメラに向かっています。

金上側の子どもたちも集まりました。すでに10時の交信でいっぱい話ができたとそうで、この時間はジャンケンで遊びました。「これでうまく遊べるのかな？」と試してみましたが、思ったよりタイムラグもなく、ブラジルの子どもたちもわかっているようで、楽しくジャンケンができました。これは凄いです。地球の裏側と交信しているとは思えません。



◎ブラジルへのインタビュー

さて、ブラジルの子どもたちは、ホベルト・ノリオ学校に通っている児童です。その学校の校長である山内和子さん（写真の左側の人）と子どもたちに、記者の方がインタビューしましたので、その内容をご紹介します。



（交流のきっかけについて、山内さん）すべては成田さんのおかげで、こういう形になりました。

成田さんがブラジルに来られて、その時に話をうかがい、最初は幼稚園での交流ということで始まりました。幼稚園での交流ですので、作品を送ったり、いただいたりしていたが、実際に子どもたちに日本を触れさせてあげたいということで始まりました。

スカイプ交流は、今回で3回目です。

こちらは真夜中ですが、子どもたちは、スカイプ交流を楽しみにしていましたので、みんながんばっています。今夜は学校にお泊まりです。みんな寝袋を持ってきました。



（記者の）日本語わかりますか？（の問いに、あるお子さんは）ボク、わかります。

（山内さん）多少わかる子とわからない子がいます。

この交流は素晴らしいですね。子どもたちが大きくなってもしません。ホームステイの温かさに、私たちも心を打たれるくらいで、本当にありがたく思っています。

来年の1月のお世話になる子どもたちがここに来ています。

（記者の）子どもたちに聞きます。日本は好きですか？（の質問にあるお子さんは）ハイ。

（記者の）どんなところが好きですか？（の質問に、山内さん）時間が正確で、きちんとしているのが良い、という子がいます。おばあちゃんから話を聞いて、とても素晴らしいところだということで、ぜひ行ってみたいという気持ちの子もいます。



（記者の）今年日本では大きな地震がありました。それについて何かありますか？（の質問にあるお子さんは）悲しい。

（山内さん）こちらでも、子どもたちみんなが心配して、ブラジルでも募金を行うなど、いろいろ運動がありました。それで、今回（2012年1月のこと）は10名ぐらいで日本へ行くつもりでしたが、中には日本の親戚から「来るな」という言葉があつて、人数は5名になりました。こちらは割と平気なんですけど……。今ここに参加している5人の子ども全員が、1月そちらへ行きます。

（記者の）日本に親戚のある人が多いのですか？（の質問に対して山内さんは）そうですね。近い親戚ではないのですが、この子たちは4世ぐらいですね。子どもたちは、おじいちゃん・おばあちゃんから話を聞いて、日本の文化に小さい時から興味は持っています。それが目的で、私の学校でも日本語を教えています。日本語は、語学の選択科目として取り入れているという形です。

ここまでが記者によるブラジルへのインタビューです。
最後は、みんなで挨拶して、交信が終わりました。



ちなみに、パソコン室には、大沼校長ら学校関係者、成田さん、佐藤房枝さん、樋口さん（公民館運営委員長）らが交信の様子を見守っていました。

◎会津側の子どもたちへのインタビュー

続いて、記者の方による会津側の子どもたちへのインタビューの様子をお伝えします。なお、私からも一部質問しました。

(子ども) 交信は楽しかったです。1月直接会えるのが楽しみです。

(記者) 地震があって海外の人が来ないとか、日本へ行くのをやめる人が多いと思いますが、こうやって来てくれるのは嬉しいですか？

(子ども) ハイ。

(先生) 君はホストファミリーだよね。ブラジルの子が君の家に泊まるんだよね。きょうはその子と会った？

(子ども) ハイ、会いました。

(記者) どんなことをきょう話したのですか？

(子ども) よろしくお願いします。(と話しました)

(記者) 言葉が通じるか、不安ありましたか。日本語で話せましたか？

(子ども) ハイ。話せました。

(記者) ホームステイに来る前に、実際に話せて安心しましたか？

(子ども) 安心しました。

(私) ホームステイというのは選ばれるのですか。それとも選ぶのですか。

(子ども) 自分が希望しました。

(私) どうして希望したのでしょうか？

(子ども) 自分がブラジルに行った時に、世話してもらったからです。

(私) それはいつですか？

(子ども) 一昨年です。

(私) 今何年生ですか。

(子ども) 6年生です。

(私) じゃあ4年生の時ですね。その時の感想は？

(子ども) 日本語もしゃべれたので良かったです。それより(というより)、自分はポルトガル語もしゃべれたので、伝わったかなと思いました。

(記者) きょうもブラジルの言葉で話し掛けましたか？

(子ども) ハイ。

(記者) どういう挨拶でしたか？

(子ども) 自己紹介くらいですけど。

(記者) 向こうに伝わっていましたか？

(記者) 多分。

(記者) ほかの皆さんは？皆さんどうでした。話してみて。

(子どもたち) 楽しかったです。すごく楽しかった。本当に通じるのかと思いました。

(記者) 日本語で通じました。

(子どもたち) ハイ。

(記者) ジャンケン以外に何かしましたか？

(子ども) あっち向いてホイ。

(記者) 向こうの皆さん、わかりましたか？

(子ども) ハイ。向こうから、あっち向いてホイをやりたいと言ってきたんです。

(記者) 国際交流はおもしろいと思いましたか？

(子ども) ハイ。

(記者) 日本が好きだと言っていました、嬉しいですか？

(子ども) 嬉しいです。

(記者) 福島は、地震で大変ですが、そういうところに来てくれるのは？

(子ども) 嬉しいです。

(記者) 楽しみですね。

(子ども) ハイ。

(記者) 会津は寒いと話しましたか？

(子ども) それは体験するとわかると思うし、初めての人には体験してもらった方が良いと思います。

(子ども) 雪合戦が楽しみです。メッチャしたいです。

(子ども) ブラジルの子もしたいと言っていた。

(記者) こういった交流でブラジルに関心が湧きましたか。

(子ども) 行きたいです。行ってみたいくなりました。

(記者) ブラジルのイメージは？

(子ども) 暑そう。

◎成田さん・佐藤房枝さんへのインタビュー

次に、記者による成田さん・佐藤房枝さんへのインタビューの内容をお伝えします。途中、私も質問しています。

(佐藤) これは、公民館の事業でもないし、学校の事業でもなく、町の事業でもありません。民間レベルでやっています。でも、みんな全面的に協力しています

(成田) 多分、小学校でブラジルと交流しているのは、ここだけではないですか。千葉県に中学校で交流しているところはあるんですが、あとはブラジル側の学校に聞いても「ありません」と言っていました。



↑ 成田さん

(記者) 県の海外研修というのは？

(成田) 県の若人の翼です。今は無くなりましたが。

(記者) もともと成田さんは学校の先生？

(成田) いいえ、違います。ブラジルでは「先生」と言われていますが。

(佐藤) 成田さんは農家の人です。地元の方です。ブラジル大好きな成田さんです。

(成田さん、「ファゼンダ成田：代表」を書いてある自分の名刺を出して) ファゼンダとはブラジルの農場という意味です。

(佐藤) ブラジルの子どもたちは、2012年の1月10日～17日まで、こちらに滞在します。

(成田) ブラジルからは2年に一度来ています。授業の一環です。学校・金上地区で対応しています。こちらからのブラジル訪問は、4年に一度になることもあります。こちらから一昨年の夏行ったのは8年ぶりでした。

(私) ブラジルからは何人くらいで来ましたか？

(成田) 一番多い時は8人で来ました。日系人も結構学校に入っていますから、日本に親戚があるんじゃないですか。おじいちゃん・おばあちゃんの実家が日本にあるのでしょうか。その実家の方で心配して「子どもは今、来ない方がいいんじゃない」と言っているのではないのでしょうか。

(佐藤) それは福島県外の親戚ですね。

(成田) でも、ブラジルでは、放射能の心配ではなく、地震によって会津・金上では、みんな大変な生活をしているのではないかとということで、こっちに来てお邪魔して大丈夫なのか、という心配です。

(佐藤) この8月、山内校長先生が、会津の状況の確認のため、現地視察に来ているんです。それで「大丈夫だ」ということになりました。

(記者) あらためて、交流するきっかけを教えてください。

(成田) そもそも向こうから私個人にアプローチがありました。最初は「幼稚園での交流がしたいので、どこか幼稚園を紹介してほしい」という要望がありました。「じゃあ地元の幼稚園」ということで金上幼稚園に行って当時の園長に話したら「じゃあやりましょう」となって、はじめは子どもたちが描いた絵とか作品の交換、催し物の写真の交換などをやっていました。

その幼稚園の子どもが小学校に入って、4～5年経ってからでしょうか、「小学校での交流をやりましょう」となりました。

でも、その頃、日本では小学生が海外の子どもと行ったり来たりするなんて、まずあり得なかったもので、「これは無理だろう」と思ったのですが、ブラジル側で企画して「今年来ます」となったのです。

ホベルト・ノリオ学校は、日本でいう幼稚園と小学校を兼ねている学校です。規模は100人ほ

どです。通う子どもは、日系人だけではありません。

山内校長は日系二世です。ご両親が日本人です。

山内さんは、子どもたちに「日本の文化や歴史を肌で感じさせたい。雪を体験させたい。都市部より農村部の昔からの家庭を体験させたいという」という思いから、人的交流をやりたいと考え、そして会津を選んだと思います。

そこから交流が始まりました。最初は向こうから何回か来たのですが、その内「ブラジルへも来てください」と言われましたので、会津からも行くことになりました。

ブラジルとの交流の経緯が詳しくわかったところで、最後に成田さんと私との談義からご紹介します。

(成田) 山形には飯豊町などに仕事の仲間がいっぱいおりまして、この前も米沢や長井市など、あちこちに行ってきました。農業ですが、花壇苗が中心にやっています。モノが足りなくなると2時間くらいかけて山形へ行きます。今は道路も良くなりました。

ブラジル交流は、どこの援助・補助もなく、みんな自費で楽しんでやっています。学校では授業の部分で、ホームステイは民間でやっています。

ここまで詳しくブラジル交流についてお伝えしました。

なお、ブラジルの子どもたちが金上に滞在している来年(2012年)1月14日、会津坂下町では、当地最大のお祭りのひとつである“奇祭 坂下初市～大俵引き～”が開かれます。その時には“だがしや楽校全国寄り合い2011子どもサミット”でつながった西東京市(子どもアミーゴ西東京)と横浜市都筑区(まんまるプレイパーク)の子どもたちも会津坂下町にやってくる計画があります。

ここまでだけでも、お腹一杯になるほど取材することができました。大満足です。

同時に、ますます金上小学校の統廃合が残念に思いました。成田さんの「小学校でブラジルと交流しているのは、ここだけではないですか」は重くのし掛かります。

加えて、行政はもちろん、民間からも含めて、補助・助成は一切受けていないという、純然たる金上地域・民間レベルの事業であることも凄いことです。

しかもです。それを、金上小学校で行っているのです。なんという小学校なのでしょう。賞賛する言葉ありません。感動・感激などという言葉でも足りません。

私の「来年1月、受け入れ先として名乗りあげたのは、どうしてですか？」質問に「ブラジルへ行った時にお世話になったからです」という6年生のお子さんの答えにも、私はノックアウトです。

この日の取材は始まったばかりなのに、これでは最後まで持つでしょうか。



大感激の中、まだ学習発表が続いていますので、気を取り直して、様子を拝見することにしてしましよう。

《学習発表》

◎5年生：目指せ！お米博士



米処会津です。今年も5年生の発表は“目指せ！お米博士”です。

◎6年生：探ろう！“会津の歴史”伝え合おう！
“平和な世界”

1年前も6年生の発表は会津の歴史に関するものでしたが、今年は平和のことも盛り込みました。“だがしや楽校全国寄り合い2011子どもサミット”に参加してくださったお子さんの顔も見えます。



《福島大学との交流》

この日は、もう1つ大きな取材が待っていました。それが、福島大学との交流です。
タイミング良く、福島大学の方とタツプリ談義することができました。
まず、福島大学との交流について、佐藤房枝さんの説明をご紹介します。

大学の授業の一環で、社会教育研究をテーマに、会津坂下町に来ています。
金上公民館にも何度も来ました。それで「夏休み、金上キッズクラブという活動があるので、ボランティアに来ないですか？」と言ったら、来てくれました。
また、その後の本格的な調査では、地域の方や公民館運営委員の人など、いろんな人にインタビューし、聞き取り調査をしていましたが、その時に“金上いなほ祭り”を紹介したら、「行きま

す」となりました。

それで、きょう来ることになったのですが、数名程度とっていたら、なんと人数は14名となり、バスで来ています。教授の人も来ています。

研究は単位になりますが、“金上いなほ祭り”参加は単位になりませんので、好きで来ているのでしょう。“金上いなほ祭り”という実践活動を見てみたい、とのことでした。

「それじゃあ、おみせも出してみたら」と申しあげたら、“福島県クイズ”というおみせを出すことになりました。また、大勢で来られましたので、ほかのおみせの手伝いもお願いしました。

また、せっかくの機会なので、私たち（金上）にも力を貸していただきたいということで、お願いしていることがあります。

金上公民館では、“公民館海援隊”（※注1）の活動で、愛媛・北海道・島根の公民館と共同研究することになり、それぞれ地元の大学の力を借りて、アンケートを作ってもらっています。

そのアンケートで聞き取り調査した結果を、金上で発表できないか、と考えており、その手伝いをしてもらっています。

福島大学では、金上のことを本格的に調査していましたし、金上の地域づくり協議会とアンケートを作りましたので、地域づくりのお手伝い・アドバイザー的な感じで、喜んでやってくれています。

担当の千葉悦子教授（行政政策学類）は、福島県の男女共生センターの所長もされています。

※注1：公民館海援隊については、文部科学省のこちら↓のホームページをご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/kaientai/1293990.htm

なお、このホームページでは“だがしや楽校”という言葉を見つけることができます。

そこで、佐藤房枝さんが私に紹介してくださったのが中澤八榮さん（写真の左の人）です。

あとは中澤さんと私との談義です。中澤さんからは、今回の福島大学による会津坂下町での調査活動のこと、社会教育と公民館のことなどをお聞きしました。



◎中澤八榮さん（福島大学大学院 地域政策科学研究科）の話

大学院で、今年度の授業で、社会教育課題研究が学部制・学年制での授業の中にあって、私が指導している先生から「一緒に参加しませんか」と誘われ参加しました。

その社会教育課題研究では、会津坂下町の地域づくりとか、公民館の問題などのことについて研究して、発表会をやりましょう、ということで、こちらにお邪魔しています。

最初にお邪魔したのが6月で、予備調査として、会津坂下町の役場や金上公民館、それにNPO法人N I V Oなど、いろんなところへ行って、会津坂下町の地域づくり・まちづくりについてのどのような取り組みをしているのかを、だいたい聞きました。

9月4日～6日には本調査として、福島大学の学生たちと私のような大学院生14名で、金上公

民館にお邪魔しました。それで、“金上いなほ祭り”がこの地域のメインの行事であり、“だがしや楽校”も開かれるとお聞きしましたので、参加したいと思っていました。

きょうも14名で参加しています。先生2名も来ています。

私は社会教育が専攻です。ですから、この研究調査は私にとって打って付けのテーマでした。

元々の自分の研究テーマとは若干違いましたが、公民館とか地域づくりといったことは、これから自分の研究テーマの中に入れたいと思っていました。

(本調査をされて、会津坂下町、そして金上地区をご覧になった印象は?)

町全体としては、住民の方々といっしょに協働で新しいまちづくりを目指そうという点で、まだ不十分な面はあるかもしれませんが、一步一步着実に前進しているのかなと思います。住民の方々の意見をかなり取り入れている面もありますし、ほかの町とは違う面があるのかなと思います。

金上公民館につきましては、館長さんをはじめとして、佐藤さん、それに運営委員の方々を含めて、自主公民館という名の通りの活動をしている、という受け止め方をしています。

(全国的にみられる公民館のコミュニティセンター化についてのご意見は?)

今回の会津坂下町での調査研究では、3つの研究テーマがあり、3班に分かれて調査しています。その内、私はA班に入り、3名で研究を進めています。実は、この班のテーマが“自主公民館の成果と課題”と“コミュニティ化の問題点”であり、山口さんのご質問は、我々の研究としても、一番追求していかなければならないものです。

平成25年度には、金上公民館が、コミュニティセンターに移ることになっていますが、9月の本調査の時、金上公民館を含め、会津坂下町の自主公民館7ヶ所をすべて訪問させていただきました。その時は、コミュニティ化についての取り組みの状況について話を聞きましたが、まだまだ温度差があるんだな、という感じがしました。

私は、山口さんがご質問されましたように、公民館がコミュニティ化になった時に、社会教育が薄らいでくるのではないかという懸念に対する葛藤もありますが、これからの進め方によっても違ってくると思います。また、確かにそういう傾向があるかもしれませんが、もう一方に於いては、そういう心配事が払拭される面もあるのかなという感じをしています。

山形の公民館の事例も、機会があったらぜひ勉強したい、と思っています。

金上公民館では、山形県川西町のきらり吉島へ見学に行っていますので、それを参考にしながら進めていけば、と思っています。

社会教育に携わる人間としては、公民館のコミュニティ化によって、社会教育が薄れることがないように、と期待しているのが率直な気持ちです。

これで、福島大学の会津坂下町での取り組みがわかってきました。

なお、中澤さんは、仕事（教育とは関係ない、いわゆるビジネスです）で長年山形に滞在しておられ、米沢のことも含め、山形のご存じでした。

次に学生さんへもインタビューしました。

◎学生さんたちの話

大学の授業の一環で、社会教育を学ぶ授業をやっています。それで、会津坂下町を調査対象地にして、調査研究しています。

きょうは金上小学校で金上公民館と協力して行っている“金上いなほ祭り”が開催されるということで、参加させていただきました。

調査研究では、会津坂下町の社会教育を取り扱って、そこでの協働とかを、公民館や地域住民の方から聞き取り調査し、全体像を把握できたら・・・ということを目的にやっています。

きょうは、地域の方との交流を目的に、“金上いなほ祭り”に参加しました。そして、福島大学生としてもおみせを出して、触れ合おうかな、と考えてきました。

おみせは福島を扱ったクイズです。クイズの問題は、学生みんなで考えました。福島県のクイズを通して、子どもたちにも福島のことを知ってもらおうと思っています。新しい発見があるかもしれません。

学生は、社会教育主事を目指している人が多いです。

昼休みは、美味しい芋煮（味噌味です）とおにぎり（蓮沼金上公民館館長収穫の特性米）をいただきながら、千葉教授ともお話ししましたが、私（山口）は、福島大学の取り組み方について「良いことだな～」「素晴らしいな～」と思いました。

私（山口）にも経験があります。NPOを長年やっていると、ある大学から突然「NPOに関する意識調査・実態調査」としてアンケートが送られてきます。純粹に答えを求めてくるくらいならまだ良い方で、「NPOとはこういうものです」と決めてかかり、その上で質問事項が並んでいますと、答える気はまったく無くなります。私たちは、大学の研究対象になりたくて、NPO活動をやっているわけではありません。

だからと言って、大学が行う調査・研究を拒絶するものではありません。社会を良くするためには、大学による調査・研究は絶対に必要です。

問題は、調査・研究する時の姿勢・態度です。

福島大学の今回の取り組みは、会津坂下町という現場に入り込み、地域の人たちとコミュニケーションしながら進めています。逆に金上公民館からお願いされたことも対応します。

何より、この日の“金上いなほ祭り”に、単位にもならないのに、参加していることが、その証です。福島県クイズも自分たちで考え、問題を作り、おみせを出しました。本当に素晴らしいです。

こういう姿勢・態度が、結局は実りある調査・研究につながるのです。

金上小学校の統廃合が近づく中、福島大学の皆さんにも英知を結集していただきたいと、私からもお願いしたいと思います。

というわけで、順不同になりますが、“だがしや楽校”から、福島大学のおみせを先にご紹介します。

▼福島県クイズ



「福島県のマスコットキャラクターは？」「福島県の木は？」「猪苗代湖は日本で何番目に大きい湖でしょう？」などのクイズに、子どもたちは真剣になって答え、当たると大喜びしていました。

学生さんたちは「子どもたちが盛り上がってくれて、とても楽しかったです」と感想を語りました。



《だがしや楽校》

それでは、午後1時～午後3時の“だがしや楽校”の模様をご紹介します。

▼グランドゴルフ



老人クラブのおじいちゃんたちによるグランドゴルフです。校庭で予定していましたが、天気の関係で、“福島県クイズ”脇の廊下で遊びました。

▼ベーゴマに挑戦

ベーゴマのおみせは“金上いなほ祭り”では、今回が初めてです。ベーゴマが盛んな子どもアミーゴ西東京の影響によるものでしょうか。私が取材した時には、子どもたちはベイブレードで遊んでいました。ベーゴマで遊んでいる様子取材することはできませんでしたが、エンディングでの6年生からの報告で、ベーゴマに挑戦した様子をお聞きすることができました。



▼絵手紙教室



身近な素材をハガキに描いてみましょう・・・という絵手紙教室のおみせです。素材として、果物や草花が並んでいます。



手芸クラブのお姉様たちも作っています。手芸クラブのおみせ（折り紙が変身！）は、後ほどご紹介します。

▼手作りショップ

女の子さんたちによるおみせのようです。早速、お子さんにインタビューしてみましよう。

私：どんなおみせですか。

女の子さん：フェルト（布）にボンドを付けて、小物を作ります。



私：何年生ですか？

女の子さん：3年生です。（私たち）3人で作ったおみせです。

私：みんなで考えたのですか？

女の子さん：ハイ。



別の女の子さん（が私のところに来て、きちんと挨拶して）：ありがとうございます。

私：楽しいですか？

挨拶した女の子さん：（笑顔いっぱい）ハイ！

私：どういうところが楽しいかな？

挨拶した女の子さん：なんかお客さんに喜んでもらったりするところが楽しいです。

私：すごいですね。じゃあ、がんばってくださいね。

女の子さんたち：（きちんとお辞儀しながら）ありがとうございました。

3年生にして、なんとという礼儀正しさなのでしょう。笑顔いっぱいの受け答えに大感激です。自ら私に近づいて「ありがとうございます」と挨拶される積極性にも頭が下がりました。



“だがしや楽校”が始まったばかりなのに、いきなりノックアウトです。素晴らしいです。

▼マジッククラブ



マジッククラブは今年も健在。私が取材した時にはトランプマジックを披露していました。

▼紙ひこうきを作ろう（公民館）



3年生の教室に入ると、大人の方が真剣になって紙ひこうきを作っています。その中には、蓮沼金上公民館館長の姿もあります。子どもたちの姿が見えず、ちょっと変な感じ??

そこで、脇で見守っている先生と思われる男性の方へインタビューしてみましよう。

Q：普段は何をしていますか？ A：会社員です。

Q：きょうはどうして紙ひこうきの先生なのですか？ A：保護者で学年委員長なので。

Q：紙ひこうきの作り方は？ A：インターネットで調べました。

Q：大人だけです。 A：このあと先生役になる人たちが練習中しているところです。



インタビュー中は、周りからクスクスと笑い声が・・・。

このあと、子どもたちも集まり、廊下では紙ひこうきを飛ばす風景が見られました。

▼パチンコ射的



4年生の教室では、保護者の人たちによる“パチンコ射的”のおみせが開かれました。

針金ハンガーでパチンコを作り、的あてします。子どもだけでなく、昔子どもだった人も夢中です。



▼うれしい楽しい魚釣り



おみせ番のお子さんへインタビューしました。

(私) 君たちは何年生ですか？

(お子さん) 5年生です。

(私) これはみんなで考えたのですか？

(お子さん) ハイ。

(私) 魚は何で作ったのですか？

(お子さん) 紙と空き缶です。

(私) 自分たちで作ったのですか？

(お子さん) ハイ。

(私) どうしてこれをやろうとしたのですか？

(お子さん) 先生が「そういうもので良いんじゃない」と言ってくださったので、みんなで「やろう」となり、作ったらおもしろかったので、やりました。

ここでも元気に、そしてしっかりと私の質問に答えました。なお、釣り竿も子どもたちの手作りです。

▼ふんわりくるくるひこうきや



1年生の保護者の人たちによるおみせです。付箋紙で上からヒラヒラおりの飛行機を作っています。また、紙で折ったものをふんわりくるくるおろして点数を競うゲーム、紙で折ったものを的にめがけて投げて点数を競う的当てをやっています。

遊びは、役員・会長さんを中心に、皆さんで考えました。



▼折り紙が大変身：金上手芸クラブ



会津坂下町・金上の“だがしや楽校”と言えば、忘れてならないのが“金上手芸クラブ”のお姉様たち。4月、会津若松市で開催された“福島を元気にするプロジェクト”では、金上公民館でも“だがしや楽校”を開いたのですが、“金上手芸クラブ”のお姉様たちが率先しておみせを出しました。



この日は、折り紙・ビーズ・ゴムを使って、ブレスレットやネックレスを作っていました。また、2枚の折り紙で、ホオズキを作りました。私が「ホー」と言いますと、お姉様たちは「ホー・・・ズキ」と応じました。大爆笑です。



今回も、体育館入口には、“金上手芸クラブ”の皆さんによる鮮やかな作品が展示されていました。



▼消しゴムはんこでポチ袋作り



2年生の保護者の人たちによるおみせです。

消しゴムはんこを使った遊びは東北芸術工科大学の学生さんたちが“ハガキ作り”で開いていますが、こちらは紙を切って作ったポチ袋に消しゴムはんこでスタンプしています。



▼軽石アート

昨年に引き続き、金上幼稚園に通うお子さんの保護者の人たちによるおみせです。もはや定番になっているのでしょうか。身近にある軽石を削って、動物などいろんなモノを作っています。



昨年もご紹介しましたが、会津坂下町の芸術家・猪俣さんが考えられた遊びだそうです。

▼ビーズアクセサリ



5年生の教室は、保護者の人たちによる“ビーズアクセサリ”“牛乳パックで張り子作り”のおみせです。



▼牛乳パックで張り子作り



2つのおみせとも、小さなお子さんから大人の皆さんまで、楽しく作っていました。牛乳パックを利用した遊びはいろいろ見ているのですが、張り子作りは初めて拝見しました。

▼かわいく、ステキにデコっちゃおう



6年生の教室では、保護者の人たちによる“かわいく、ステキにデコっちゃおう”のおみせです。



私のインタビューに答えてくださった担任の先生によりますと、マグネットの上にシリコン（接着剤）を付けて、自分の好みの飾りを付けるおみせで、飾り付けるのを楽しみます。

これは、地元の小物屋さんでやっているところがあり、そこで習ってきのおみせにしました。

ただ、小物屋さんではフォトフレームを作っていますが、それでは作るのに時間がかかりますので、自分たちでマグネットを使うことを考えました。



ここでも、子どもから大人まで、中学生も混ざり、年齢関係なく遊んでいました。

▼絵本読み聞かせ



会津坂下町を中心に読み聞かせなどの活動している“トトロの会”による読み聞かせです。右の写真は“なが〜いお話”という長い紙をめくりながらのお話です。

“トトロの会”は、16年以上にわたり活動を続けています。

▼お茶会

今年も“お茶会”のおみせが出されました。会津若松市にお住まいの裏千家・高橋さんから指導を受けながら、子どもたちがお茶を点て、おもてなしをしています。

楽しく、にぎやかな中に、落ち着くことができるお茶会は、本当に癒されます。



▼はずむシャボン玉

シャボン玉のおみせは、あちこちの“だがしや楽校”で見られる遊びですが、“はずむシャボン玉”は、あまり見掛けません。

ふしぎふしぎ・・・シャボン玉はよくはずみます。





▼スーパーマルコ体操



1年前の“いなほ祭り”で初めて拝見した“スーパーマルコ体操”は、会津坂下町あげて推進している体操で、今回の“いなほ祭り”でもおみせのひとつになりました。

今回あらためて拝見しますと、単なる身体を動かす体操ではなく、頭と神経を使っていることがわかりました。高齢化社会が進む中、認知症防止につながると見た“スーパーマルコ体操”は地域づくりのひとつの方策と感じました。

▼わたがし

雨がやんだ中庭では、わたがし屋さんが開かれました。

子ども大好きなわたがし屋さん。自分で作って食べることもできますし、写真では福島大学・学生のお姉さんにわたがしを作ってもらっています。



▼ポン菓子

ところで、時々**ドカーン！**という大きな音が響きます。そのたびに「オーッ！」という声があがります。私が落ち着いたお茶会取材していた時にも光線と共に**ドカーン！**

これは、中庭でポン菓子を作っているからです。

それでは、ポン菓子が出来る瞬間（大音響が炸裂する瞬間）の連続写真をご紹介します。



出来上がったポン菓子に味を付けています。大人向けに？、チョッピリ辛いカレー味にしています。

写真の右の人が、“だがしや楽校全国寄り合い 2011・子どもサミット”にも参加された樋口さんです。



▼作品展示（体育館）



↑金上キッズクラブの作品



2時間の“だがしや楽校”はアツと言う間です。午後3時、“だがしや楽校”終了の時刻です。体育館に集まり、金上っこの主張の表彰、防犯標語の表彰のあと、平成23年度“金上いなほ祭り”のエンディング“です。

《エンディング》

子どもたちの司会進行でエンディングセレモニーが行われました。

学年代表児童による感想発表です。

☆1年女児：“よさこいワッショイ”の時に、みんなで「せい」と声をかけたのが楽しかったです。それから5年教室では“ビーズアクセサリー”のおみせで腕輪を作ったり、“かわいく、ステキにデコっちゃおう”を6年生の教室で作ることができ、楽しかったです。



☆1年男児：“よさこいワッショイ”の時みんなと楽しく踊れたから楽しかったです。

☆2年男児：たくさんのおまつりがあって楽しかったです。

☆2年女児：2年生の発表で、間違いがなくできたので、良かったです。

☆3年女児：自分たちが開いたおみせで、30分くらいでおみせの商品が全部売り切れたのが嬉しかったです。

☆3年男児：合奏や歌も間違えないで出来たし、いろんなおみせで商品がもらえたり、自分で遊びが出来るようになって良かったです。

☆4年男児：学年発表で間違えずに出来たので良かったです。あと、だがしや楽校では楽しく遊べたので良かったです。

☆5年男児：ボクはきょう、このいなほ祭りに参加して、5年生の発表では“めざせ！お米博士”というテーマで学習を進めてきたことについて、まとめたものを発表しました。ボクたちの班の発表では一度も間違えずにスムーズに発表できていたので良かったです。だがしや楽校の時はボクたちの開いたおみせが大好評だったので、来年はもっと凄い内容のものを開きたいと思いました。きょうはあいにくの雨でしたが、地域の皆さん、来賓の皆さん、来てくださって、本当にありがとうございました。

☆5年男児：だがしや楽校では大好評だったし、発表もうまく出来たので良かったと思います。これからも、来年も、もっと上手にやりたいと思います。

☆6年男児：きょうの学年発表では大きな声で発表できたので良かったです。だがしや楽校ではベーゴマに挑戦しましたが、最初は簡単と思っていたけど、なかなか出来なくて、何回もやったら出来たので、とても嬉しかったです。

そして、児童代表が次のように挨拶しました。

きょうはお忙しい中、いなほ祭りに来てくださり、ありがとうございました。きょうの発表やだがしや楽校は楽しんでいただけましたか。金上小学校は再来年統合になってしまうので精一杯がんばった人も多いと思います。きょうは本当にありがとうございました。

こうして、午後3時30分すぎ、平成23年度“金上いなほ祭り”のすべてのプログラムが終了しました。

《金上いなほ祭りが終わり・・・》

このあと、大沼金上小学校校長から校長室に招かれた私は、佐藤会津坂下町教育委員会教育長に挨拶し、蓮沼金上公民館館長や大沼校長としばらく懇談させていただきました。

懇談して感じたのは、金上小学校が地域と密接につながっていることです。1年前にも感じましたが、今回はさらに強く感じました。

この報告の最初にも申し上げましたが、「安全確保」と称して門を閉ざす小学校が多い中、金上小学校は地域に開いています。なぜそんなことができるのでしょうか。それは地域とつながっているからです。地域とつながっているとは、地域に住んでいる人たちの顔が見えるということです。地域の安全とは、学校の安全とは、こうして守られるのです。つまり、地域と一体となっていることで、学校の安全を守っているのです。

それは、この日の“金上いなほ祭り”の“だがしや楽校”を拝見しますと、すぐにわかることです。全校挙げて“だがしや楽校”を開いているのは、日本全国でも、ここ金上小学校だけです。

それは、この報告に掲載している写真をご覧くださいと、おわかりになるでしょう。

“だがしや楽校”では、小さなお子さんからご年配の方まで、年齢・性別など一切関係なく、皆さんが楽しんでいきます。

おかあさんたちも、子どもたちといっしょに遊んでいました。1年前ですが、“だがしや楽校”仲間が“金上いなほ祭り”をご覧になって「ほかでは、子どもを見守るだけで、でも口出し・手出しはするというおかあさんが多い中、ここでは、おかあさんたち自ら遊びますので、口出しする人もいませんでした」と感想を語っていたのですが、それは今回も変わっておりません。

それから、中学生・高校生の姿もありました。すべての世代が参加していた“金上いなほ祭り”でした。

“だがしや楽校”では、おみせ番をしている人が、ほかのおみせに行って遊んでいる光景も見掛けました。私のインタビューに対する子どもたちの対応も素晴らしかったです。“金上いなほ祭り・だがしや楽校”が着実に成長していることを感じました。

先にご紹介したブラジル交流を小学校として取り組んでいるのも、ここ金上小学校だけであることをお聞きしました。

その金上小学校は、2013年（平成25年）3月で、その歴史を閉じます。

こんなことがあって良いのでしょうか。でも、仕方がないことなのでしょう。

小学校の統廃合後、金上という地域をどうしたら良いのか、今から考えなければなりません。しかし、それも重要ですが、統廃合になるまで、金上小学校の下で、精一杯生きることの方がもっと大切です。この瞬間を一步一步確実に、そして思いっきり歩むことだと思います。それが、新たな未来を築きます。

校長先生ら小学校関係者と挨拶し、金上小学校を後にした私は、佐藤房枝さんたちに挨拶するため、金上公民館に立ち寄ります。

公民館からは、にぎやかな声が聞こえます。福島大学・学生さんたちがひと休みしています。

学生さんたちは、“福島県クイズ”のおみせだけでなく、いろんなところで“いなほ祭り”を盛り上げてくださいました。

子どもたちにとっても、地域の人たちにとっても、学生さんや大学関係者との触れ合いは、日常生活では、なかなかあり得ないことです。そういう意味でも、学生さんたちの参加は、金上の人たちにとって、貴重な体験であり、刺激になったはずです。

それは、学生さんにとっても同じでしょう。

学生さんたちは、たくさんの（目には見えないものですが）お土産を持って、バスに乗り込み福島へ向かいました。私も見送りました。

そして、私も、蓮沼さん・樋口さん・佐藤房枝さんに見送られ、金上を後にしました。

会津坂下町金上地区の皆さん、ありがとうございました。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター